デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2026年（令和8年）11月12日（木曜日）（12）

学生の若い感性ぎゅっと



5分間の短編、ジャンル多彩

八戸工業大感性デザイン学部の戴周杰助教（33）が担当する授業「映像制作実習」では、映画や映像表現に関心を持つ2年生15人が各5分間の短編映像を制作した。ジャンルはドキュメンタリーやサスペンス、喜劇、アニメなど多彩。どれも若い感性がぎゅっと詰まった作品に仕上がった。

戴助教の研究室では、映像制作やアートマネジメント（アート活動の支え手）の研究を手がける。青森県内の大学では珍しい取り組みだ。地域と連携した実践的な学習を重視し、昨年度は八戸市の「白マドの灯」が開く映画上映会のスタッフを務めたほか、市民から公募したホームムービーの上映も企画した。

学生はこれまでの実習でカメラワークや編集の基本を学習。戴助教の招きで、日本アカデミー賞最優秀編集賞に4回輝いた編集技師、宮島竜治さんらの特別講義を受ける機会にも恵まれ、貴重な経験を重ねた。

映画祭では、授業の最終課題として作った短編映像を上映する。会場にはアンケート用紙を置き、来場者に感想を書いてもらう。

片座早彩さん（20）は、自分と同じ年齢の女性に亡き祖父から手紙が届くという設定で心温まる物語を完成させた。「作品を市民に見てもらうのは初めて。自己満足で終わらず、来場者からの評価を今後の制作に生かしたい」と語る。

戴助教は「生徒は短期間に多様な課題をこなし、大きく成長した。映像作家の卵として可能性を感じる」と評価。「作品発表は学生の達成感につながる。いずれ八戸に新しい映画館ができたら、大きなスクリーンでも上映したい」と話す。

短編映像集は18～22日の午前10時～午後8時、南部会館ロビーのモニターで、無料でリピート上映する。

このほか、戴助教の映像制作ゼミに所属する4年の松川遥希さん（21）が「映画大好きポンポさん」を21日午前10時からクリニック街かどミュージアムで上映する（有料）。若い監督の成長を描いた感動的なアニメ映画で、松川さんは「一つの映画に大勢のスタッフが関わり、完成させていることも伝えたい」と力を込める。

（佐藤周平）

※随時掲載



短編映像を披露する八戸工業大の２年生と戴周杰助教（後列左）＝八戸市

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。